建築レコードの目録作成法

アーカイブズ学に基づく米国の実例に学ぶ

ARCHIVAL TECHNIQUES AND FINDING AIDS FOR ARCHITECTURAL RECORDS

Arrangement and description practices based on archival science in the United States

齋藤 歩^{*1}

Ayumu SAITO

This study considered the relationship between archival techniques and finding aids for architectural records in the United States. First, we provided an overview of the project plan, which was prepared by archivist Nancy Loe as a grant proposal (Chap. 2). We then organized the component elements of finding aids, which were created according to the project outcomes (Chap. 3). Finally, we compared the outcomes with the proposal (Chap. 4). The results clarified the following points: (1) a finding aid is composed of modules such as a container list, an index, and an inventory; and (2) a finding aid could be prepared in multiple ways.

Keywords : *Architectural Records, Archival Science, Archival Arrangement, Archival Description, Finding Aid, Julia Morgan*

建築レコード, アーカイブズ学, 編成, 記述, 検索手段, ジュリア・モーガン

1. はじめに

1.1. 背景と目的

建築生産のプロセスで作成される「建築レコード Architectural Records」を対象に、アーカイブズ学に基づいて考案された資料整理法がある。この「資料整理 Archival Processing」は、資料の受入から、資料の「編成 Archival Arrangement」と「記述 Archival Description」とによる目録作成、および物理的な保存までを対象とし、公開や利用促進にも関係する。各整理段階の基礎的な考え方は文献等で紹介されているものの、そうした整理の技法を統合して実務でどう応用しているかを知る機会は、じつはあまり多くない。米国アーキビスト協会等の専門職団体のように、実践の情報交換の場はあっても、実務の全体像を俯瞰できる機会はやはり稀である^{注1)}。

そうしたなかアーキビストのナンシー・ローは、カリフォルニア州立工芸大学 (California Polytechnic State University、以下 Cal Poly) が所有する建築家ジュリア・モーガンに関する資料を対象とした整理事業の計画——特定の資料を対象としながらも同大学にとって旧来の検索システムを刷新する初めての機会でもあった——を公開しており^{注2)}、2004年に書かれたその計画書は、アーカイブズ業務の工程を包括的に知れる数少ない情報源のひとつとなっている。

本論の目的は、建築レコードを対象に米国で培われてきたアーカイブズ学に基づく目録作成法のポイントを、実例から学ぶことである。目録作成に関する技法について、その役割や導入時の要点が実践から明らかになれば、日本の実務への貢献にもなる。そのために論じる対象を、ここでは、ローによる事業計画書と事業成果として作成された「検索手段 Finding Aid」とに設定する。

1.2. 先行研究の把握

論理的に考えて、目録の整備に用いるのはアーカイブズ学に基づく技法だけに拘る必要はない。実際に、図書館学や建築学にもさまざまな事例がある。アーカイブズ学による試みについては、次章以降で言及するので、ここではそのほかの先行研究に触れる。

図書館学と関係する実践的な研究に、王立英国建築家協会 (Royal Institute of British Architects、以下 RIBA) で1995年から2000年にかけてアシスタント・キュレータを務めたエレノア・ガウンによる2003年の論文がある^{注3)}。ガウンは、この論文で「完全目録作成法 Full Cataloguing」と「簡易目録作成法 Economic Cataloguing」の考え方に基づいて、RIBAの目録作成について解説した。

RIBAは1834年に英国建築家協会 (Institute of British Architects) として設立し、附属施設として英国建築図書館 (The RIBA Library) を併設する。ここでは図書だけでなく図面や写真等の各種資料も所有し、そのうち図面コレクションについては「建築図面の目録作成におけるパイオニア」と称されるほどの伝統を持つ^{注4)}。その目録は、アイテム一点別を主な対象として、図書館学の考え方に基づき作成されるが、現在ではその総数が100万点にもおよぶため^{注5)}、資料の記述法を工夫してこの膨大な分量に応じている。その工夫が、簡易目録作成法である。

歴史資料のためのアイテム別記述 (完全目録作成法) と19世紀後半以降の比較的新しい建築家の活動を再現するための集散的記述 (簡易目録作成法) との使い分けは、異なる時代の資料を通時的にひとつのシステム内に併存させるための柔軟な技法と評価できる。その一方で、時代も性質も異なる資料をひとつの仕組みで記述しよう

^{*1} 京都大学総合博物館 特定助教・修士 (アーカイブズ学)

Program-Specific Assist. Prof., The Kyoto University Museum, M.Archival Science

とすることの限界が露呈してもいる。つまり、見方を変えれば、RIBA の目録作成法は、図書管理の伝統的手法をもとにした現場での工夫にすぎず、資料群全体を体系化して作成者の活動を再現するアーカイブズらしい管理体制への抜本的な移行が実現できていない状態とも言える。

日本国内では、建築分野のアーカイブズへの関心の高まりと目録作成法の検討とを、建築学に関係する学術誌と大学紀要とに掲載された 2000 年前後の論考から読み取ることができる。

まず、1999 年に発表された調査報告は^{注 6)}、著者自身の博士論文執筆のための資料収集と建築分野を専門とするアーカイブズ等での研修との経験をもとにして、北米の建築分野のアーカイブズについて特徴をまとめている。本論でも注目する検索手段 (Finding Aid) については、「ここでの目録とは、アーカイブ内での使用を目的としたコレクションの目録で、情報量に応じて、Index、Inventory、Finding Aid に分類される」と解説している^{注 7)}。この定義自体は、根拠となる文献等が記載されておらず、また、アーカイブズ学では Finding Aid を「記録群に含まれる情報の発見を促すツール」と定めて、索引 (Index) やインベントリ (Inventory) をその一例に位置づけていることからすると^{注 8)}、見直しが求められる内容ではある。しかし、日本で資料の目録作成法を論じるうえでは大きな貢献であった。建築分野で資料目録の種別とその作成法について、日本でほとんど議論が展開されてこなかったなかで、その考え方が体系化されうること示したためである。

次に、大学美術館での資料整理についてまとめた 2000 年の論文は^{注 9)}、自館の事例分析から汎用性の高い方法を導こうとする試みである。本論のテーマと関係するところでは、「3-1: 目録の作成」で、データベースの構築について述べて、台帳やカードによる従来の方式に比べて「多角的な検索」が可能となることを電子データの利点としている^{注 10)}。また「3-4: 公開・活用」で、「共通索引」の作成などを提起している。前者の「多角的な検索」は Finding Aid の訳語としてしばしば用いられる「多角的検索手段」を想起させるし、後者の「索引」は Index の訳語であることから、1999 年の前掲論文と関心の近さを読み取ることができる。あるいは、記述標準の必要性を主張するなかで、アーカイブズのための国際標準 ISAD(G) (General International Standard Archival Description) に言及しており^{注 11)}、アーカイブズ学の考え方への関心も垣間みえる。

こうした研究成果は、建築物そのものだけでなく資料群の保存と利用へと関心が広がる 2000 年前後の日本の動きも相俟って^{注 12)}、建築博物館の設立 (日本建築学会、2003) や国立近現代建築資料館の設置 (文化庁、2012/開館 2013) に少なからず影響を与えているように思える。また、個別の資料整理への影響もいくつか確認できる^{注 13)}。なによりも、それまで漠然としか認識されてこなかった建築分野の資料群に「アーカイブ (ズ)」という言葉を与えたことで、その存在に概念を定着させて、対象を語りやすくさせた。しかし、この二つの論文については、先行研究の把握の不十分さや用語の定義の不徹底を指摘せざるをえない。そのためか、その後は、アーカイブズ学に限らなくとも継続した成果を育むような研究面の発展も、実務面の需要や応用を生み出す展開も見られなかった。

1.3. 方法と構成

アーカイブズ学に依拠していないことを理由に、先行研究に挙げ

た試みに価値がないなどと述べたいわけではない。しかしながら、バックログの増加と無秩序な物的編成とが資料の利用を困難にする現実に対して、有効に作用してきたのはアーカイブズ学に基づく集合的な整理である^{注 14)}。そのため本論でも、現実の課題解決のためにアーカイブズ学を参照した事例について考察する方法を採る。

本論は以下の三つのパートからなる。第一に、ナンシー・ローが作成した Cal Poly での事業計画書の概要を確認する (第 2 章)。ここでは編成と記述の考え方、および作成する検索手段の種類に注目して、計画のポイントを理解する。第二に、上記計画の成果として実際に作成された検索手段の構成を、編成と記述の技法に注目して把握する (第 3 章)。おもな対象は、カリフォルニア州オンライン・アーカイブ (Online Archive of California、以下 OAC)、OCLC (Online Computer Library Center) の WorldCat、Cal Poly のロバート・ケネディ図書館 (Robert E. Kennedy Library) が提供する資料検索ツール Polycat (当時の呼称。現在は Kennedy Library Online Archive, Cal Poly、以下 KLOA) である。いずれもローが計画書で企図したデータ登録先である。第三に、前章までの内容をふまえて、技法の特性と検索手段の構成とを比較することにより、事業計画で挙げた技法と事業成果とについて考察する (第 4 章)。

2. 事業概要の確認：ナンシー・ローによる計画書を対象に

Cal Poly のロバート・ケネディ図書館でアーキビストを務めていたナンシー・ローは、カリフォルニア州で女性として初めて建築士の資格を得た建築家のジュリア・モーガンに関する資料群を整理するため、全米人文科学基金 (National Endowment for the Humanities、以下 NEH) に事業計画書を提出した。その結果、2004 年に 249,000 ドルの助成を受けて^{注 15)}、ローは 2005 年 5 月から 2007 年 4 月にかけてディレクターとして 2 年間の事業に取り組むことになった。

2.1. 事業のねらいと全体像：「(a) 事業の意義」について

1980 年、Cal Poly は相続人からモーガンの資料の寄贈を受けた。ここには、設計図面等の会社記録と家族写真や私的な書簡といった個人文書とが含まれていた。同大学は、このほかにも八つのモーガン関連資料の寄贈を受けた^{注 16)}。また、作家のサラ・ホームズ・ボウテールの資料もボウテールの死後に寄贈された。ここには、ボウテールがモーガンの伝記『建築家ジュリア・モーガン』の著者であることから^{注 17)}、執筆に関する書簡やノート等と、参考資料として収集されたモーガンの手稿や図面とが含まれていた^{注 18)}。ローの事業計画は、これらのすべての資料が対象であった (以降では、前者をモーガン・コレクション、後者をボウテール・コレクションと呼ぶ)。

1985 年、寄贈された上記資料について、検索手段が作成された。ところが、これらは当計画の事前調査で「前世代 legacy」のツールとみなされた^{注 19)}。この評価は、事業が計画された 2000 年代初頭が、電子版の検索手段に注目が集まり、冊子から電子へと媒体の世代交代が進んでいた時期であったことにも関係する。ローは、こうした動向を見据えて、事業の意義を以下のように主張している。

NEH による助成は、カリフォルニア州立工芸大学のモーガン・コレクションを、編成、記述、保存するために極めて重要である。建築アーカイブズを記述するための国際標準が規定される

以前に作成された、旧モーガン・コレクションの前世代の検索手段は、[この助成によって]修正されて更新されることになる。[関係する]より小さな八つの寄贈コレクションは、編成と記述を経て、修正されたモーガン・コレクションの検索手段に追加される。現在の MARC (Machine-Readable Cataloging) レコードも更新されることになる。

ジュリア・モーガンに関するサラ・ホームズ・ボウテール・コレクションは、独立した検索手段と MARC レコードとのために、はじめての編成と記述を実施する。この二つの電子版検索手段は EAD (Encoded Archival Description) によって構造化される。EAD DTD は、利用者による編集と調査と検索、および利用者の要望に応じて第三者が検索手段をカスタム可能とするために、メタデータの枠組みを提示する。この事業は、カリフォルニア州立工芸大学におけるはじめての EAD 適用の試みとなる^{注 20)}。

続けて、具体的な施策として事業の柱を五つ挙げている^{注 21)}。

- i. モーガン・コレクションとボウテール・コレクションの計 291 フィートにおよぶアーカイブズを、編成、記述、保存する（建築レコードに関する国際的な実践と標準とを参照して）。
- ii. 検索可能な 25 のデジタル画像と電子版検索手段とを作成する（EAD を用いて）。
- iii. アクセス方法を拡張する（OAC を通じて検索手段をウェブサイトで発行することによって）。
- iv. 二つのコレクションに関する MARC レコードを作成する（OCLC 「WorldCat」 と Cal Poly 「Polycat」 との利用者に対して、書誌目録からのアクセスを提供するため）。
- v. ボウテール・コレクションを使った 3,500 点の写真データベースを構築する。

このうち ii から iv の三つが検索手段に関係することから、検索手段の作成が事業の要といえる。i の資料整理は、検索手段を実現するための方法（プロセス）に位置づけられる。したがって、「建築レコードに関する国際的な実践と標準とを参照」することを i として第一に掲げているのは、ii から iv の OAC や WorldCat のような他機関と共同利用するオンライン・リポジトリに、検索手段のデータを円滑に登録するための方法としてであり、国際標準への準拠それ自体を独立した目的に位置づけているのではない。また、v の「3,500 点の写真データベース」は、昨今の日本で関心を集めている「デジタルアーカイブ」といえる。ここでは、その目的を「視覚情報 visual information」へのアクセスと記しており、文字情報をおもな対象としたアーカイブズの「検索手段」(ii から iv) を、視覚情報を重要視して資料自体を閲覧するための「デジタルアーカイブ」(v) と区別している。つまり、検索手段はあくまで資料を見つけるためのツールであり、資料そのものの視覚情報をオンラインで提供することとは一線を画している。

計画書では、これらを実現するために必要な業務が、実際の手順にしたがってまとめられた [表 1]。

Table1 Table of Contents for Loe's Grant Proposal

(a) 事業の意義 Significance	p. 1–
(b) 方法論と標準 Methodology and Standards	p. 14–
(b-1) アプレイザル Appraisal	
(b-2) 編成と記述 Arrangement and Description	
(b-3) 保存と保全 Preservation and Conservation	
(b-4) 検索手段、EAD によるウェブサイト、MARC レコード Finding Aids, EAD Web Sites, and MARC Records	
(b-5) アクセスと利用の備え Access and Provisions for Use	
(b-6) 資料の用意と整理 Preparation and Processing of Material	
(b-7) 資料の組織化と資料へのアクセス Organization of and Access to Material	
(b-8) データの収納、管理、保護 Storage, Maintenance, and Protection of Data	
(c) 業務計画 Work Plan	p. 21–
(d) 人員 Staff	p. 24
(e) 普及活動 Dissemination	p. 25

はじめの「(a) 事業の意義」のおもな内容は、本節ですでに記したとおりである。具体的な業務は、次の「(b) 方法論と標準」にまとめている。このうち本論で注目する目録作成については、「(b-2) 編成と記述」「(b-4) 検索手段、EAD によるウェブサイト、MARC レコード」で考え方を示している。続く「(c) 業務計画」「(d) 人員」では、事業に必要な実際のリソース——時間と人材——を割り出している。最後の「(e) 普及活動」では、事業成果の周知方法について記している。

2.2. 用いる技法：「(b) 方法論と標準」について

「(b) 方法論と標準」では、目録作成について、編成と記述との各技法の考え方を述べて (b-2)、それにより作成される検索手段の種類を挙げている (b-4)。以下に、b-2 と b-4 の概要を示す。

(b-2) 編成と記述

フォルダ・レベルを中心に編成と記述とを実施する。そのための全体構成は、ケルシー・シェパードとウェイヴェリー・ロウエルによる「スタンダード・シリーズ Standard Series」で定める。デジタル・イメージについては、より下位のアイテム・レベルも対象とする。さらに全業務のクライアント名とプロジェクト名をまとめた「プロジェクト索引 Project Index」の作成とシリーズ「追加寄贈資料 Additional Donations」の設置とが求められる。

(b-4) 検索手段、EAD によるウェブサイト、MARC レコード

二種類の検索手段を作成する。第一は、EAD を用いたウェブブラウザ閲覧用の電子版の検索手段である。これらは、EAD でエンコードされた記述情報を OAC に登録することで実現する。エンコードは外部ベンダーに依頼する。スタッフの時間を編成と記述とに割くためである。本事業では、コレクション、シリーズ、サブシリーズの三つの階層と、さらにフォルダ・レベルの「容器リスト Container List」とを設ける。なお、カリフォルニア州の大学は、米国障害者法 (Americans with Disabilities Act) に準拠する必要があるために、フレームを使ったウェブサイトは避けなくてはならず、同じ内容を PDF 形式でも提供することが望ましい。第二は、MARC で構造化した情報である。モーガンとボウテールのコレクション毎に作成して、WorldCat と Polycat に登録する。

2.3. 専門用語についての補足：

EAD、スタンダード・シリーズ、プロジェクト索引

ローの事業計画書では、アーカイブズの専門知識について、参考文献を記す程度の補足に留めている。本論の次章以降では、これらの理解が不可欠となる。そのため、ここで補足的にいくつかの用語について解説する。

当事業では、EAD（Encoded Archival Description）と MARC（MACHine-Readable Cataloging）とが参照された。前者の EAD は、資料の情報を構造化して機械可読とするための標準で、アーカイブズの特徴である資料群の多階層性を再現できる。後者の MARC は、図書の情報を構造化して機械可読とするための規則で、おもに書誌情報の管理に用いられる。

「(b-2) 編成と記述」で参照された「スタンダード・シリーズ Standard Series」は、カリフォルニア大学バークレー校環境デザイン・アーカイブズのウェイヴェリー・ロウエルが中心となって 1990 年代後半に考案されて、2000 年に発表された考え方で、いわば建築レコードを編成するためのモデルである^{注 22)}。ここでは、建築レコードの編成モデルを「個人文書 Papers」と「会社記録 Records」とを中心とする 8 種類のシリーズで示す [表 2]。設計等の業務プロセスにおける証拠性を重要視することから、一般的には会社記録のほうに保存の意識が向きがちである [表 2 の 4 から 6]。しかしながら、設計者および技術者の活動をアーカイブズとして残すにあたり、個人文書にも同等の価値を与えていることがわかる [表 2 の 1 から 3]。このモデルは発表後に他のアーカイブズでも参照されており、Cal Poly の当事例もそのひとつである^{注 23)}。

Table2 Eight Series in “Standard Series”

1：個人文書 Personal Papers
略歴、日記、書簡、学生時代の作品、旅行記録、写真、家族文書、徴兵関係、スケッチブック、スケジュール帳、著作物 Biographical Information, Diaries, Correspondence, Student Work, Travel, Photographs, Family Papers, Military Service, Sketchbooks, Datebooks, and Writings
2：専門文書 Professional Papers
書簡、著作物、プレゼンテーション、専門団体と委員会、アワード、研究ノート、参照ファイル、コンサルタント、審査、写真、特許、教員文書 Correspondence, Writings, Presentations, Associations and Committees, Awards, Research Notes, Reference Files, Consulting, Jurying, Photographs, Patents, and Faculty Papers
3：教員文書 Faculty Papers
業務、教材、研究ノート、参照ファイル、学生の作品、学内委員会 Administrative, Course Materials, Research Notes, Reference Files, Students' Works, Faculty Committees
4：会社記録 Office Records
業務、書簡、財務、広報、写真、プレゼンテーション、スクラップブック、予定表、クリップブック、製品カタログ、模型、見込客 Administrative, Correspondence, Financial Records, Public Relations, Photographs, Presentation Materials, Clippings and/or Scrapbooks, Appointment Books, Clipbooks, Product Literature, Models, and Prospects
5：プロジェクト記録 Project Records
プロジェクト一覧、ファイル、写真、図面、仕様書、契約書、模型、報告書 Project Lists, Files, Photographs, Drawings, Specifications, Contracts, Models, and Reports
6：大規模プロジェクト Major Projects
ファイル、写真、図面、仕様書、契約書、模型、報告書 Files, Photographs, Drawings, Specifications, Contracts, Models, and Reports
7：美術品、モノ資料 Art & Artifacts
8：追加寄贈資料 Additional Donations

同じく「(b-2) 編成と記述」では、「プロジェクト索引 Project Index」の作成が計画された。前掲のロウエルが勤務していたカリフォルニア大学バークレー校環境デザイン・アーカイブのウェブサイトには、プロジェクト索引の構成要素についての解説がある^{注 24)}。

A：建築主またはプロジェクト名 Client Name/Project Name

建築主の名称を先に並べる。プロジェクトの名称がある場合は、建築主名とは別にリストに加える

B：場所と州 Location and State

プロジェクトが所在する地理的場所

C：竣工年や設計期間 Date

単年または複数年、またはおおよその日付

D：プロジェクト種別 Project Type

ビルディング・タイプ（例：商業ビル、住宅）

E：共同者とその役割 Collaborator/Role

共同した設計者、技術者、ランドスケープ・アーキテクト

＊「名前（役割）」のように書く（例：Maybeek, B. (architect)）

F：資料の配置場所 Physical Location of Materials

資料タイプ別に配置場所を示す容器番号

＊資料タイプ：

- (1) マニュスクリプト Manuscript Records
(例：往復書簡、仕様書、契約書、積算書)
- (2) 図面 Drawing
- (3) 詳細図面 Detail Drawing
- (4) 写真 Photograph

＊容器タイプ例：

B: 箱 Box、F: フォルダ Folder、T: 筒 Tube、
FF: フラット・ファイル Flat File=oversize folder in a FF

G：マイクロフィルム Microfilm

マイクロフィルムを作成した範囲を書く

＊凡例：すべて all、一部 selected、なし none

このうち A から E がプロジェクトについての項目で、F では関連する資料の保存場所を 4 種類の資料タイプ別に示す。ここには検索手段内の容器リストに記載された容器番号を記述する。G は複製物の存否情報である。

建築レコードの利用者は、希望の資料をプロジェクト名から特定すると考えられる^{注 25)}。その場合、まずプロジェクト索引から関心のある建築物等の名称を見つけて、F の容器番号によって請求すべき資料の場所を特定することになる。資料の詳細情報は、この索引には含まれておらず、容器番号を介して参照できる容器リストに記される。なお、ここで建築作品ではなく「プロジェクト」を用いるのは、建築物の実現の可否にこだわらず、コンペ案も展覧会も著作物も設計者等の経歴として同等に扱うためである。

2.4. 小括：議論の枠組みを設定する

ローの計画のうち、目録作成法、つまり編成と記述および検索手段のポイントをまとめて、以降の議論の枠組みとする [表 3]。

Table3 Archival Techniques for Architectural Records

1：編成と記述 Arrangement and Description for Multilevel Finding Aids [Table 1-(b-2)]
1-1 (編成)：スタンダード・シリーズを参照 Arrangement referring to the Standard Series
1-2a (記述 a)：フォルダ・レベルをおもに記述 Description at the folder level
1-2b (記述 b)：プロジェクト索引を作成 Addition of Project Index at the series level
2：検索手段の構造標準 Structure Standards for Finding Aids [Table 1-(b-4)]
2-1：EAD
2-2：MARC

編成と記述のポイントは、第一にスタンダード・シリーズを参照して全体を構成したこと（1-1）、第二にフォルダ・レベルについておもに記述しながら（1-2a）、利用者の検索を助けるプロジェクト索引の作成も計画したことである（1-2b）。

検索手段のポイントは、二つの種類を用意したことである。第一の EAD は、資料の全体像をアーカイブズの特徴である階層構造で再現することが可能であり（2-1）、第二の MARC は、既存の書誌目録を活用することで資料情報へアクセスする間口を広げる（2-2）。

3. 事業成果の構成把握：

ジュリア・モーガン・ペーパーズの検索手段を対象に

事業計画書とともに残された最終報告書によれば、当事業は 2007 年 4 月 30 日に終了した^{注 26)}。当初は二つのコレクションにまとめる予定であったが、ボウテール・コレクションは四つに分けることになった。そのため、モーガン・コレクションを加えた五つの資料群について、各々に二種類の検索手段がつけられた^{注 27)}。本章では、そのうちモーガン・コレクションをまとめた「ジュリア・モーガン・ペーパーズ Julia Morgan Papers」に関して、EAD (3.1) と MARC (3.2) とによる検索手段の構成を把握する。なお、この検索手段の相互関係を、3.3 (表 8) と次章の 4.4 (図 2) とでまとめた。あらかじめ目を通せば、本章の理解の助けとなるだろう。

3.1. EAD 版の構成

第一は EAD を用いた検索手段で、OAC で閲覧できる^{注 28)}。OAC はカリフォルニア州全域の資料所有機関 200 以上が共同利用するオンライン・リポジトリで、Cal Poly は現時点でスペシャル・コレクション&アーカイブズより 79 件の所有資料群の情報を、EAD で階層構造を保持したまま、登録している。これと同じ内容を PDF で出力した検索手段は、OAC^{注 29)} と Cal Poly のウェブサイト^{注 30)} とで閲覧できる。OAC が 42 頁で Cal Poly が 91 頁と、頁数と表紙のデザインとが異なるが、OAC のウェブページと同じ構成である。

3.1.1. シリーズの編成

ジュリア・モーガン・ペーパーズは、九つのシリーズで構成される [表 4]。シリーズ 1 と 2 が個人の文書で、シリーズ 3 から 7 が会社の業務記録である。大型プロジェクトの図面類には、シリーズ 5 から 7 のように個別のシリーズを設けて、それ以外のプロジェクト記録はシリーズ 4 にまとめている。

Table4 Series and Sub-Series of “Julia Morgan Papers” in OAC	
シリーズ 1: 個人文書 Personal Papers, 1835–1958	
1.1	略歴情報 Biographical Information
1.2	家族との往復書簡と記録 Family Correspondence and Records
1.3	私的な書簡 Personal Correspondence
1.4	日記 Diaries
1.5	教育と学生の作品 Education/Student Work
1.6	財務と投資 Financial Records and Investments
1.7	旅行 Travel
1.8	写真 Photographs
シリーズ 2: 専門文書 Professional Papers, 1904–1957	
2.1	表彰 Awards
2.2	専門団体と委員会 Associations and Committees
2.3	資格 Certifications
2.4	専門的往復書簡 Professional Correspondence
2.5	研究ノートと写真 Research Notes and Photographs
2.6	参考文献ファイルと写真 Reference Files and Photographs
シリーズ 3: 会社記録 Office Records, 1904–1945	
3.1	カードのファイルとリスト Card Files and Lists
3.2	往復書簡: クライアント、共同者、所員 Correspondence—Clients, Colleagues and Staff
3.3	写真: クライアント、共同者、所員 Photographs—Clients, Colleagues, and Staff
3.4	モーガンへの委託業務についての出版物 Published Material on Morgan Commissions
シリーズ 4: プロジェクト記録 Project Records, 1902–1943	
4.1	プロジェクト・ファイル Project Files
4.2	プロジェクト写真 Project Photographs
4.3	プロジェクト図面 Project Drawings
シリーズ 5: サン・シメオンのプロジェクト記録 San Simeon Project Records, 1919–1945	
5.1	往復書簡 (美術商との) Correspondence—Art Dealers
5.2	往復書簡 (作品貸出のための美術館との) Correspondence—Art Loans to Museums
5.3	往復書簡 (美術作品に関する) Correspondence—Art Objects
5.4	往復書簡 (職人、所員、不動産会社) Correspondence—Artisans, Staff, Vendors
5.5	往復書簡 (クライアント: W・R・ハースト) Correspondence—Client W.R. Hearst

5.6	エフェメラ Ephemera
5.7	財務記録 Financial Records
5.8	サン・シメオンの写真 San Simeon Photographs
5.9	サン・シメオンの図面 San Simeon Drawings
シリーズ 6: サン・シメオン以外のハーストとのプロジェクト記録 Other Hearst Project Records, 1910–1945	
6.1	プロジェクト・ファイル Project Files
6.2	プロジェクト写真 Project Photographs
6.3	プロジェクト図面 Project Drawings
シリーズ 7: YWCA のプロジェクト記録 YWCA Project Records, 1913–1946	
7.1	プロジェクト・ファイル Project Files
7.2	プロジェクト写真 Project Photographs
7.3	プロジェクト図面 Project Drawings
シリーズ 8: 美術作品とモノ資料 Art and Artifacts, 1898–1929	
8.1	美術作品 Art
8.2	モノ資料 Artifacts
シリーズ 9: 追加寄贈資料 Additional Donations	
9.1	Walter L. Huber Engineering, Correspondence and Drawings [MS 125]
9.2	YWCA Asilomar Drawings [MS 89]
9.3	Monday Club Drawings, San Luis Obispo [MS 87]
9.4	San Simeon, Roman Pool Glass Tiles [MS 136]
9.5	Morgan Commissions for W.R. Hearst—Files and Drawings [MS 91]
9.6	Gum Moon Chinese Methodist Mission, School, San Francisco [MS 127]
9.7	Hafley Ranch Photographs, San Simeon Creek Road, San Simeon [MS 128]
9.8	Walter L. Huber Engineering Correspondence and Drawings, San Simeon [MS 82]
…中略…	
9.21	King’s Daughters of California Home for Incurables Plans and Photograph [MS 131]
9.22	Wynton, Photo Album [MS 132]
9.23	W. San Simeon and Wynton Vintage Prints [MS 133]
9.24	X. Wynton, Photographs [MS 134]
9.25	Y. Phoebe Apperson Hearst Residences Photographs [MS 138]
9.26	Cecilia Graham San Simeon Photographs [MS 137]
9.27	Hearst Antique Furnishings Acquisition Photographs, 1929–1937 [MS 139]
9.28	Wynton Drawings [MS 84]

3.1.2. 各レベルの記述項目

OAC の各レベルでは、以下の項目を記述している。フォルダ・レベルのリストが、事業計画に記された容器リストにあたる。

コレクション Collection Overview

タイトル Title、日付 Date、コレクション番号 Collection number、作成者 Creator、概要 Abstract、規模 Extent、言語 Languages、収蔵機関 Repository、出所 Provenance、アクセス Access、利用と複製の制限 Restrictions on Use and Reproduction、推奨の引用方法 Preferred Citation、略語 Abbreviations Used、助成 Funding、索引語（主題、資料の分野と形態）Indexing Terms (Subjects, Genre and Forms of Materials)、関連資料（ほかの目録の資料）Related Materials (Materials Cataloged Separately)、関連コレクション Related Collections、経歴 Biographical Note、範囲と内容 Scope and Content Note

シリーズ Series Description

タイトル Title、範囲と内容 Scope and Content Note

フォルダ Folder List

タイトル Title、箱／フォルダ番号 Box/Folder Number

3.2. MARC 版の構成

第二は MARC レコードを用いた検索手段である。当事業で計画されたデータの登録先は WorldCat と Polycat であったが、現時点で情報を確認できるのは WorldCat^{注 31)} のコレクション・レベル (3.2.1) と KLOA^{注 32)} (計画当時の Polycat) のアイテム・レベル (3.2.2) とである。3.1 の EAD 版とは異なり、MARC で書誌情報を扱う要領で各階層のデータを別々に登録して、階層構造を持たない。そのため、3.2 では記述のみを対象とする。

3.2.1. コレクション・レベルの記述：WorldCat

WorldCat にはコレクションの情報が登録されている。記述を確認できるのは^{注 33)}、表 5 の 12 項目である。

Table5 Description Elements and Entries (Collection Level)
of “Julia Morgan Papers” in WorldCat

1 : タイトル Title
Julia Morgan Papers, 1835-1958
2 : この資料へのリンク Links to this item
http://lib.calpoly.edu/support/findingaids/ms010-morgan/
3 : ジャンル/形式 Genre/Form
Archives, History, Records and correspondence, Correspondence
4 : 関連の人物 Named Person
Phoebe Apperson Hearst; William Randolph Hearst; William Randolph Hearst; Julia Morgan; Julia Morgan; Julia Morgan; Walter T Steilberg; Phoebe Apperson Hearst; William Randolph Hearst; Julia Morgan
5 : 資料の種類 Material Type
Internet resource
6 : ドキュメントの種類 Document Type
Archival Material, Internet Resource
7 : すべての著者/寄与者 All Authors / Contributors
Julia Morgan
8 : OCLC No. Number OCLC
123571126
9 : 言語注記 Language Note
Text in English, French, Spanish, German, and Italian.
10 : メモ Notes
Since the original collection gift, subsequent donations have been made by various donors and such additional donations continue to accrue.
11 : 物理形態 Description
99 boxes 24 flat file drawers 11 tubes 5 artifacts
12 : 概要 Abstract
Contains architectural drawings and plans, office records, photographs, correspondence, project files, student work, and personal papers from the estate of Julia Morgan. The bulk of the material extends from 1896 when Morgan left for Paris to study architecture at the Beaux-Arts, until 1951 when she retired. Additional donations of original Morgan materials have also been given to Cal Poly by other donors and are included in this guide; they include gifts from engineering firm Earl and Wright, the YWCA, and others.

3.2.2. アイテム・レベルの記述（1）：KLOA

KLOA には画像つきでアイテムの情報が登録されている。記述を確認できるのは、表 6 の 16 項目である。

Table6 Description Elements and Entries (One of the Item Levels)
of “Julia Morgan Papers” in KLOA

1 : タイトル Title
Telegram from William Randolph Hearst to Julia Morgan, October 29, 1928
2 : ID Identifier
010-5-e-54-10-12
3 : コレクション名 Collection title
Julia Morgan Papers
4 : コレクション番号 Collection number
MS 010
5 : シリーズ名 Series
San Simeon Project Records - Correspondence-Client W.R. Hearst
6 : 箱番号 Box / Location
54
7 : フォルダ番号 Folder
10
8 : 作成日 Date created
1928-10-29
9 : 人名 Personal Name(s)
William Randolph Hearst
10 : 市 City
San Simeon
11 : 州 State
California
12 : 国 Country
United States
13 : 元の形式 Original format
Telegram
14 : タイプ Type
Text
15 : 検索手段 Finding aid
http://www.oac.cdlib.org/findaid/ark:/13030/kt9s2030pj/
16 : 利用と複製 Use and reproduction
Notice regarding copyright of materials available online: http://lib.calpoly.edu/support/policies/sca-policies/copyright-guidelines/#online-copyright

3.2.3. [参考] アイテム・レベルの記述（2）：Calisphere

OAC と同様にカリフォルニア・デジタル・ライブラリー (California Digital Library) が提供するデジタル・アセット管理サービスの Calisphere にもジュリア・モーガン・ペーパーズの情報が登録されている^{注 34)}。資料群の情報を、OAC では上位レベル（コレクション）から閲覧できるのに比べて、Calisphere では下位レベル（アイテム）からデジタル画像とともに閲覧できる。ここでは KLOA と同じようにアイテムの情報だけが登録されており、情報源として OAC（コレクション）と KLOA（アイテム）へのリンクを配している。記述を確認できるのは、表 7 の 12 項目である。

Table7 Description Elements and Entries (One of the Item Levels)
of “Julia Morgan Papers” in Calisphere

1 : タイトル Title
Telegram from William Randolph Hearst to Julia Morgan, October 29, 1928
2 : 作成者 Creator
William Randolph Hearst (author)
3 : 作成日 Date Created and/or Issued
1928-10-29
4 : 収蔵機関 Contributing Institution
California Polytechnic State University, San Luis Obispo
5 : コレクション名 Collection
Julia Morgan Papers
6 : 権利 Rights Information
Notice regarding copyright of materials available online: http://lib.calpoly.edu/support/policies/sca-policies/copyright-guidelines/#online-copyright
7 : タイプ Type
text
8 : 形式 Format
Telegram
9 : ID Identifier
010-5-e-54-10-12, http://digital.lib.calpoly.edu/rekl-81656
10 : 言語 Language
English
11 : 場所 Place
San Simeon, California, United States
12 : 情報源 Source
Julia Morgan Papers--MS 010-- http://www.oac.cdlib.org/findaid/ark:/13030/kt9s2030pj/

3.3. 小括：記述の対象レベルと検索手段の役割

本章で言及した EAD と MARC との二種類の検索手段は、対象の記述レベルと役割とに関して、表 8 のように分類できる。

Table8 Description Levels and Finding Aid Directions

検索手段の構造標準 Structure Standards for Finding Aid		Table 3-(2-1) EAD	Table 3-(2-2) MARC		
オンライン・リポジトリ Online Repositories		(3.1) OAC	(3.2.1) WorldCat	(3.2.2) KLOA	(3.2.3) Calisphere
記述レベル Description Levels	Collection	●	●	—	—
	Series etc.	●	—	—	—
	Item	—	—	●	●
検索手段の役割 Finding Aid Directions		カタログ Catalogue	ガイド Guide		

記述レベルは、コレクションを中心とした記述（OAC と WorldCat）とアイテムの記述（KLOA と Calisphere）とに分類できる。役割の分類は、マイケル・クックが検索手段の特性把握に用いて日本でも紹介された「カタログ」と「ガイド」の考え方による^{注 35)}。クックの定義によれば、カタログは「特定のグループやコレクションに関する各レベルの記述を単一のユニットに集合させて提示する場合に、垂直方向に組織化される検索手段 vertical finding aids」であり、ガイドは「同じ範囲のレベルについて記述した集合を繋ぎ合わせる場合に、水平方向に組織化される検索手段 horizontally constructed finding aids」である〔図 1〕。したがって、検索の対象範囲に注目すると、3.1 の OAC に登録されるのはカタログ、3.2 の WorldCat と KLOA と Calisphere とはそれ自体がガイドの役割を担う^{注 36)}。

Fig.1 Vertical and Horizontal Finding Aids ^{注 37)}
Note: OAC (3.1) includes the vertical finding aids known as Catalogue, which were translated as 目録 (a to c in the figure); WorldCat, KLOA, and Calisphere (3.2) are the horizontal finding aids known as Guide (1 and 2).

4. 比較と考察

本論の第2章では、ローによる事業計画を概観して、整理の技法と目標の検索手段とを確認した。続く第3章では、作成された各検索手段の構成要素を把握した。そして本章では、ジュリア・モーガン・ペーパーズについて、はじめに編成に注目して、OACのシリーズ・レベルに登録された項目をスタンダード・シリーズの項目と比較する(4.1)。次に記述に注目して、OACの登録内容を米国の記述標準 DACS (Describing Archives: A Content Standard) の項目と比較する(4.2)。さらに、OACとWorldCatとのコレクション・レベル、KLOAとCalisphereとのアイテム・レベル、以上についてレベル別に記述を比較する(4.3)。最後に各技法の特性と検索手段の相互関係とについて考察する(4.4)。

4.1. 編成モデルとの比較

編成の方針は、スタンダード・シリーズの編成モデルに依拠していた。表2と表4とを比較することで、このモデルをどのように参照しているかがわかる[表9]。シリーズ・レベルにおいて、スタンダード・シリーズの「大規模プロジェクト」に該当するのは、「シリーズ5: サン・シミオンのプロジェクト記録」「シリーズ6: サン・シミオン以外のハーストとのプロジェクト記録」「シリーズ7: YWCAのプロジェクト記録」である。大規模プロジェクトは、「長い時間をかけて同一の建築主のために完成させた多くの独立した建物で構成される(例えば、大学キャンパス、大邸宅、博覧会)」と定義されることから^{注38)}、モーガンのキャリアのなかで重要なプロジェクトがシリーズ5から7で再現されていることになる。また、「シリーズ9: 追加寄贈資料」の下には、28件のサブシリーズを設けている。このシリーズは、異なる出所——作成者の家族や友人、建築主、共同者等——からの寄贈を想定しており^{注39)}、ジュリア・モーガン・ペーパーズでも建築主や技術者から寄贈された資料が、このシリーズに位置づけられている。

Table9 Comparing OAC (T.4) to “Standard Series” (T.2) for “Julia Morgan Papers” Arrangement (Series Level)	
Standard Series	“Julia Morgan Papers” in OAC
1: 個人文書 Personal Papers	シリーズ1: 個人文書 Personal Papers, 1835–1958
2: 専門文書 Professional Papers	シリーズ2: 専門文書 Professional Papers, 1904–1957
3: 教員文書 Faculty Papers	-
4: 会社記録 Office Records	シリーズ3: 会社記録 Office Records, 1904–1945
5: プロジェクト記録 Project Records	シリーズ4: プロジェクト記録 Project Records, 1902–1943
6: 大規模プロジェクト Major Projects	シリーズ5: サン・シミオンのプロジェクト記録 San Simeon Project Records, 1919–1945
	シリーズ6: サン・シミオン以外のハーストとのプロジェクト記録 Other Hearst Project Records, 1910–1945
	シリーズ7: YWCAのプロジェクト記録 YWCA Project Records, 1913–1946
	シリーズ8: 美術作品とモノ資料 Art and Artifacts, 1898–1929
7: 美術品、モノ資料 Art & Artifacts	シリーズ8: 美術作品とモノ資料 Art and Artifacts, 1898–1929
8: 追加寄贈資料 Additional Donations	シリーズ9: 追加寄贈資料 Additional Donations

4.2. 記述標準との比較

記述の方針は、フォルダ・レベルを中心として全体像をとらえることであった。ローは参照する記述標準については明言していないが、OACにデータを入力するための「EADのためのOACベスト・プラクティス・ガイドライン」からは、DACsに基づくことを読み取れるし^{注40)}、実際の記述内容からも項目の対応関係は明らかである。そのため、3.1.2の記述項目をDACsの項目順に整列して、コレクションからフォルダまでの各レベルで対照した[表10]。ここから項目の対応を把握できる。左側の●△-は、DACsが定める記述の優先順位を示す。右の太枠内がジュリア・モーガン・ペーパーズで、記述項目に■をプロットした(□は、他の項目に含まれる内容)。

Table10 Comparing OAC to DACS Elements for “Julia Morgan Papers” Description Elements		OAC			
DACs	Multilevel top sub-sequent	C	S	S-S	F
1 記述レベル Levels of Description	● -				
2 識別の要素 Identity Elements					
2.1 レファレンス・コード Reference Code	● -	■			■
2.2 所蔵機関の名称と場所 Name and Location of Repository	● -	■			
2.3 タイトル Title	● -	■	■	■	■
2.4 日付 Date	● -	■	■		□ (2,3)
2.5 規模 Extent	● -	■		□ (3,1)	
2.6 作成者名 Name of Creator(s)	● -	■			
2.7 管理の履歴および経歴 Administrative/Biographical History	△ ●	■			
3 内容と構造の要素 Content and Structure Elements					
3.1 範囲と内容 Scope and Content	● mini, △ full	■	■		□ (2,3)
3.2 編成法 System of Arrangement	-				
4 アクセスの要素 Conditions of Access and Use Elements					
4.1 アクセス条件 Conditions Governing Access	● -	■			
4.2 物理的アクセス Physical Access	-				
4.3 技術的アクセス Technical Access	-				
4.4 複製と利用の条件 Conditions Governing Reproduction and Use	-	■			
4.5 言語と文字 Languages and Scripts of the Material	● -	■			
4.6 検索手段 Finding Aids	-				
5 収集と評価選別の要素 Acquisition and Appraisal Elements					
5.1 保管の履歴 Custodial History	-				
5.2 直近の取得元 Immediate Source of Acquisition	-	■			
5.3 評価選別、廃棄、保存年限の情報 Appraisal, Destruction, and Scheduling Information	-				
5.4 追加取得 Accruals	-				
6 関連資料の要素 Related Materials Elements					
6.1 原本の有無と所在 Existence and Location of Originals	-				
6.2 複製の有無と所在 Existence and Location of Copies	-				
6.3 関連するアーカイブズ資料 Related Archival Materials	-	■			
6.4 出版情報 Publication Note	-				
7 注記の要素 Notes Element					
7.1 注記 Notes	-				
8 記述管理の要素 Description Control Element					
8.1 記述管理 Description Control	-				

Note: ●必須項目 Required、△最適項目 Optimum、-追加項目 Added Value^{注41)}
Cコレクション Collection、Sシリーズ Series、S-Sサブシリーズ Sub-Series、Fフォルダ Folder

4.3. 検索手段の相互比較：レベル別に

コレクション・レベルについて、OACとWorldCatを比較した[表11]。表の左側は、DACsの項目とMARCフィールドの番号である。MARCはカタログとガイドとの結節点であることから、OAC(カタログ)とWorldCat(ガイド)との共通項目に限り、DACsの付録等から番号を推測して記した^{注42)}。右側の太枠内は、ジュリア・モーガン・ペーパーズの記述項目である。共通項目はここからわかり、項目数の多いOACに登録したあとに、必要な項目を抜粋してWorldCatに登録するといった作業フローも予想できる。利用者は、共通項目のうちWorldCatの「2: Links to this item」から[表11の★]、OACを参照できる(Cal Polyのウェブサイトを経由して)。

Table11 Comparing OAC (T.10) and WorldCat (T.5) for “Julia Morgan Papers” Description Elements (Collection Level)		Julia Morgan Papers	
DACS	MARC21	OAC (Collection Level)	WorldCat
1			
2.1	090, 099	■	8: OCLC Number
2.2	852	■	2: Links to this item*
2.3	245 \$a	■	1: Title
2.4	264, 0 \$c	■	
2.5	300 \$a	■	11: Description
2.6	700, 710, 711	■	4: Named Person,
	100, 110, 111	■	7: All Authors / Contributors
2.7		■	
3.1	520	■	12: Abstract
3.2			
4.1		■	
4.2			
4.3			
4.4		■	
4.5	546	■	9: Language Note
4.6			
5.1			
5.2	541	■	10: Notes

5.3			
5.4			
6.1			
6.2			
6.3		■	
6.4			
7.1	655	■	3: Genre/Form, 5: Material Type, 6: Document Type
8.1			

アイテム・レベルについて、KLOA と Calisphere を比較した [表 12]。左から KLOA の項目、Calisphere の項目、MARC の番号である^{注 43)}。ここでも太枠内の比較から共通項目を確認できる。アイテム・レベルでも、まず学内の KLOA へ情報を登録して、次にそのうち必要な情報を学外の Calisphere にも登録すると考えられる。利用者は、共通項目のうち KLOA の「15: Finding aid」から OAC を、Calisphere の「9: Identifier」から KLOA を、同「12: Source」から OAC を、各々参照できる [表 12 の★]。

Table12 Comparing KLOA (T.6) and Calisphere (T.7) for “Julia Morgan Papers” Description Elements (Item Level)

Julia Morgan Papers		MARC21
KLOA	Calisphere	
1: Title	1: Title	245 \$a
2: Identifier	9: Identifier★	534, 773--776, 780, 785, 787 \$w
3: Collection title	5: Collection	773
4: Collection number	-	
5: Series	-	
6: Box / Location	-	
7: Folder	-	
8: Date created	3: Date Created and/or Issued	260 \$g, 033
9: Personal Name(s)	2: Creator	100, 700 \$a, 700 \$e
10: City	-	
11: State	11: Place	520
12: Country	-	
13: Original format	8: Format	008
14: Type	7: Type	008
15: Finding aid★	12: Source★	856 \$u
16: Use and reproduction	6: Rights Information	540 \$a
-	4: Contributing Institution	852 \$a
-	10: Language	041 \$a

4.4. 考察：各技法の特性と検索手段の相互関係

編成に用いたスタンダード・シリーズは、まずシリーズ名で作成者の「機能 Function」や「活動 Activity」を示し、次にサブシリーズ名で「記録タイプ Records Type」を示す。つまり、機能や活動による区別を優先することになるので、同じ記録タイプでも異なるシリーズに分散する可能性がある。表 4 で、「往復書簡 Correspondence」が複数のサブシリーズ (1.2、1.3、2.4、3.2、5.1-5.5、9.1 等) にあるのは、そうした理由による。同様に「写真 Photographs」も複数のシリーズに存在する。編成によりシリーズ・レベルで作成者の活動を再現するこうした考え方は、分野に限らずアーカイブズ学の全般で共有されており、その考え方を建築分野で実践的な技法に落とし込んだスタンダード・シリーズの特性を、ジュリア・モーガン・ペーパーズの編成に見出すことができる。

記述は、コレクション・レベルに集中しており、そのほかのレベルの項目は少ない。一方、下位レベルでは、とくに主たる記述レベルのフォルダ・レベルは、項目数は少ないが、全体を網羅するためにフォルダの総数は多くなる。タイトルと ID からなるシンプルな容器リストの成り立ちは、記述標準との関係で、このように理解できる。なお、計画書ではプロジェクト索引の作成も予定されていたが、OAC では存在を確認できなかった^{注 44)}。

各検索手段の相互関係は、表 8 および図 1 のカタログとガイドの役割分担を発展させて、図 2 のように整理できる。矢印は参照（ウェブページのリンク）の方向を示しており、向きが集中していることから、OAC のコレクション・レベルと KLOA のアイテム・レベルとが情報源であることがわかる。また、OAC はアイテム・レベルの記述も可能だが、ジュリア・モーガン・ペーパーズでは、OAC 内にアイテムの情報を登録せず、EAD の特性を活かした集成的な記述を上位レベルにおいて徹底している。代わりに、容器リストのタイトルの傍らに「view online item」と記したリンクを配置して [表 10 「2.3 タイトル」の★]、MARC を用いた KLOA の資料別ページを参照している。

Fig.2 Interrelationship between “Julia Morgan Papers” Finding Aids
Note: Arrows indicate the reference relationship. Double lines refer to the unrealized levels.

5. おわりに

比較と考察を経て、ローが計画した目録作成法のポイント (表 3) に再び目を向ければ、本計画で採用された技法の特性と成果物である検索手段とについて、表 13 のように補足できる。

「1-1」には、シリーズについて記した。作成者による「原秩序 Original Order」にしたがう点はアーカイブズ学における資料整理の原則どおりだが、秩序が見い出せない場合に、編成モデルであるスタンダード・シリーズは編成のヒントとなる。本論では、ジュリア・モーガン・ペーパーズを例に、作成者の機能や活動をシリーズで再現するスタンダード・シリーズの特性を把握できた。

「1-2」には、記述の方針として、フォルダ・レベルを中心に記述することと、プロジェクト名の索引を用意することとを記した。フォルダ・レベルは、資料群全体を記述する一方で、項目数は少ないため、結果としてシンプルな容器リストが作成された。また、デジタル画像をとまなうアイテム・レベルの記述データは、対象を一部に限定して、資料群全体に対する OAC の検索手段とは別に登録された。プロジェクト索引は、事業成果としては確認できなかったが、本論ではほかの事例を参照して、その記述項目を示した。

「2」には、EAD でアーカイブズの階層構造を再現するほかに、本来は書誌情報を検索するツールの WorldCat や KLOA 等に、書誌以外の資料情報を MARC で登録することを記した。それにより、多くの場合、コレクション情報またはアイテム情報 (と画像) を個別に閲覧できて、情報の出典となる資料所有機関のウェブページへの

リンクが配される。本論では、図 2 でその関係を示した。アクセス促進を狙ったこうした使い方の普及は、WorldCat で「フォーマット format」を「記録資料 visual material」に絞り込んで検索すれば確認できる。また、米国の助成機関 NHPRC で助成条件に定められていることから^{注 45)}、事業の費用対効果を高める方法、あるいは事業成果を周知する戦略として、認識が高まっていると考えられる。

Table13 Procedures for and Outcomes from Adopting Archival Techniques

1：編成と記述 Arrangement and Description of Multilevel Finding Aids
1-1（編成）：スタンダード・シリーズを参照 Arrangement referring to the Standard Series 【技法の用途】シリーズで作成者の機能と活動とを再現 【成果物（検索手段）】インベントリー（シリーズ・レベルのリスト）を作成 Representing the creator's functions and activities (Inventory)
1-2a（記述 a）：フォルダ・レベルをおもに記述 Description at the folder level 1-2b（記述 b）：プロジェクト索引を作成 Addition of Project Index at the folder level 【技法の用途】フォルダは少ない項目で全体を網羅して、アイテムは一部のみを別記 【成果物（検索手段）】容器リストとプロジェクト索引を作成 Mainly folder level and partly item level (Container List and Project Index)
2：検索手段の構造標準 Structure Standards for Finding Aids
2-1：EAD 2-2：MARC 【技法の用途】EAD はフォルダまで。MARC で複数のガイドに登録(アクセス促進) 【成果物（検索手段）】複数種類の検索手段を作成 Using not only EAD but also MARC to enhance access (multiple types of Finding Aid)

以上より、建築レコードを対象とした目録作成法の基本方針を二つ導くことができる。

- ①検索手段は、容器リストや索引等のモジュールで構成する
- ②検索手段は、複数の種類を用意する（アクセス促進のために）

表 13 とは、1 が①と、2 が②と関係する。

①は、計画書だけでは不明瞭だが、本論のように計画された整理技法と成果物にあたる検索手段とを比較することで明らかになった。本論の冒頭で、検索手段に関して、索引 (Index) とインベントリー (Inventory) と検索手段 (Finding Aid) とが、日本の先行研究で紹介されたことに触れたが、このうち索引については、「1-2」で例示した。インベントリー——複数ある意味のうちシリーズ・レベルのリスト——は、計画書では明言されていないが、「1-1」で定めたシリーズの一覧にあたる^{注 46)}。したがって、これらは「情報量に応じて」分類されるのではなく、各々の用途が異なるのであり、また並列の関係ではなく、索引とインベントリーは検索手段の構成要素(モジュール)に位置づけられる。

②についても、事業終了後にあらためて検索手段の相互関係を図示することで理解が深まり、階層構造をとまうアーカイブズ独特の検索手段を作成するだけに留まらないローの計画に関して、そのメリットや各検索手段の役割の違いを明示できた。ただし、本計画はアイテム・レベルの記述自体の考え方を明記しておらず、「2-2」は記述した情報についての機械可読化と登録先とを記しているにすぎない。本来、ローが事業計画時に参照したアーカイブズの原則に依拠した技法は、注 14 で示したように、アイテムを重視する旧来の考え方では適わなかった全体性の把握を第一にめざして考案された背景を持つ。そのため、個別の図面等をアイテム単位で記述するには、先行事例で触れた RIBA のような伝統的な考え方をあらためて参照する必要がある。日本での実践に向けた事前準備として、こ

の点についても理解を深めておくことを提案したい。

総じていえば、本論では、実際の計画とその成果とを比較することによって、整理技法に関してローの計画内容を考察して、目録作成の実践面の要点を明らかにした。今後は、本論で示した目録作成法のポイントに留意して、日本での実践に着手する予定である。

注 *本論の和訳は、特記箇所を除いて、すべて本論筆者による。

注 1) そのひとつに同協会主催のワークショップがある。建築レコードの目録作成の技法を実践的かつ包括的に知れる恰好の機会だが、数年に一度の開催である。筆者は 2015 年に参加してその経験を報告した。文献 25)

注 2) 文献 17)

注 3) 文献 6)

注 4) 文献 6) p. 186

注 5) 文献 28)

注 6) 文献 21)

注 7) 文献 21) p. 223

注 8) 文献 23) p. 168

注 9) 文献 19)

注 10) 文献 19) p. 34

注 11) 文献 19) p. 37

注 12) 2000 年 8 月には、林昌二が顧問を務めた日建設計が創業 100 年を記念して「建築の設計原図展」を開催した。林は 2003 年より日本建築学会の建築博物館初代館長。

注 13) 文献 21) による目録タイプの定義に依拠して、2000 年以降に資料整理のケーススタディがいくつか発表されている。文献 30) ほか。

注 14) 本論で言及する建築レコードの編成モデル「スタンダード・シリーズ」が必要とされたのは、「[UC パークレーの環境デザイン・アーカイブズの] コレクションは、性質も分量もアーカイブズ的であった。そうしたコレクションを、ミュージアムの流儀にしたがってアイテム・レベルで記述したことにより、所蔵資料の多くが、見過ごされ、未整理であり、閲覧できない、という結果に陥っていた」状況の解決のためであった。文献 27) p. 2

注 15) 文献 7)

注 16) 文献 17) pp. 5-6

注 17) 文献 3)

注 18) 文献 17) p. 8

注 19) 事前調査を担当したのは、文献 18) の著者でもあるタウニー・ライアン・ネルブ。文献 17) pp. 6-7

注 20) 文献 17) p. 3 [] 内は訳者による補足。

注 21) 文献 17) p. 3

注 22) 文献 27)

注 23) スタンダード・シリーズが考案された背景や米国における利用事例については、以下にまとめた。文献 24)

注 24) 文献 9)

注 25) 建築レコードの整理法を検討するなかで、設計者も資料利用者も、プロジェクトを名称によって識別することが指摘されている。文献 18) p. 95

注 26) 文献 16) p. 3

注 27) 1「Guide to the Julia Morgan Papers」、2「Guide to the Julia Morgan-Sara Holmes Boutelle Collection」、3「Guide to the Sara Holmes Boutelle Papers」、4「Guide to the Julia Morgan-Walter T. Steilberg Collection」、5「Guide to the Edward G. Trinkkeller Papers」の五つ。文献 16) p. 2

注 28) 文献 14)

注 29) 文献 13)

注 30) 文献 15)

注 31) 文献 11)

注 32) 文献 8)

注 33) 項目名の和訳は、WorldCat 日本語版を参照した。

注 34) 文献 12)

注 35) 文献 4) pp. 132-134 日本語の文献では以下を参照。文献 2) p. 175

注 36) アイテム・レベルのガイドは、クックも安藤も図示していない。そのため、厳密には KLOA と Calisphere はガイドとは呼ばないとも考えられるが、ここでの議論は、検索手段の対象範囲を「垂直性」と「水平性」とにわけて、役割を整理することに主眼を置いた。

注 37) 文献 2) p. 175

注 38) 文献 27) p. 9

注 39) 文献 27) p. 10

- 注 40) 現在入手できるのは 2005 年発行のバージョン 2.0。文献 22) p. 1
- 注 41) 文献 5) pp. 10–11
- 注 42) コレクション・レベルの記述項目に対応する MARC 番号は、OAC の「投稿者ガイド Contributor Guides」で紹介されている「UC 書誌目録標準」の付録 B のリスト 2「必須データ要素の概要」を参照して、不足部分を DACS で補った。このリストには、DACS の必須項目に対応する MARC21 の番号と EAD タグとが記されている。文献 29)
- 注 43) MARC 番号は、KLOA で出力できる MODS (Metadata Object Description Schema) の要素から推測した。ただし、項目の対応関係を理解するための暫定的な整理であり、MARC でその関係が示されたとしても、実際には連携先とのあいだで、記述に関する仕様の調整が不可欠となる (KLOA の「10: 市」「11: 州」「12: 国」が必要か等)。文献 20)
- 注 44) カリフォルニア大学パークレー校環境デザイン・アーカイブが所有する「ジュリア・モーガン・コレクション (1893–1980)」の検索手段には 151 件分のプロジェクト索引が用意されて、OAC に登録されている。したがって、Cal Poly 所有の資料で未確認の理由は、OAC の機能が不十分であったためではなく、実際に索引が作成されなかったためと考えられる。文献 10)
- 注 45) NHPRC の助成条件のうち「事業成果物 Project Products」に記載されている。文献 1)
- 注 46) Inventory の定義は、以下を参照した。文献 23) pp. 217–218
- 注 47) 本論は、文献 26) を発展させて成稿した。

参考文献

- 1) Access to Historical Records, Grant Opportunities, National Historical Publications and Records Commission. <https://www.archives.gov/nhprc/announcement/access.html>, (accessed 2019-05-08)
- 2) Ando, M.: Archive Science and Modern Society, Yoshikawa Kobunkan, 1998 (in Japanese)
安藤正人: 記録科学と現代: アーカイブズの科学をめざして, 吉川弘文館, 1998
- 3) Boutelle, S.H.: Julia Morgan Architect, Abbeville Pr., 1995
- 4) Cook, M.: The Management of Information from Archives, Gower, 1999
- 5) Describing Archives: A Content Standard (DACS), Second Edition, The Society of American Archivists, 2013 (revised March 2015)
- 6) Gawne, E.: Cataloguing architectural drawings, Journal of the Society of Archivists, Vol. 24, No. 2, The Society of Archivists, pp. 175–187, 2003
- 7) Grant number: PA-51183-05, California Polytechnic State University, San Luis Obispo, Arrangement and Description of the Julia Morgan Architectural Archives, National Endowment for the Humanities. <https://securegrants.neh.gov/PublicQuery/main.aspx?f=1&gn=PA-51183-05>, (accessed 2019-05-08)
- 8) Guide to the Julia Morgan Papers, 1835–1958, Kennedy Library Online Archive. <https://digital.lib.calpoly.edu/rekl-morgan-ms010/>, (accessed 2019-05-08)
- 9) Guide to the Project Index, Environmental Design Archives, University of California, Berkeley. <https://archives.ced.berkeley.edu/guide-to-the-project-index>, (accessed 2019-05-08)
- 10) Julia Morgan Collection, 1893–1980, (bulk 1893–1940), Online Archive of California. <https://oac.cdlib.org/findaid/ark:/13030/tf7b69n9k9/>, (accessed 2019-05-08)
- 11) Julia Morgan Papers, 1835–1958, WorldCat. <https://www.worldcat.org/title/julia-morgan-papers-1835-1958/oclc/123571126>, (accessed 2019-05-08)
- 12) Julia Morgan Papers, Calisphere. <https://calisphere.org/collections/26819/>, (accessed 2019-05-08)
- 13) Julia Morgan Papers, Online Archive of California. <http://pdf.oac.cdlib.org/pdf/cslusp/MorganGuide.pdf>, (accessed 2019-05-08)
- 14) Julia Morgan Papers, Online Archive of California. <https://oac.cdlib.org/findaid/ark:/13030/kt9s2030pj/>, (accessed 2019-05-08)
- 15) Loe, N.E. and Fourie, D.: Guide to the Julia Morgan Papers, 1835–1958, Special Collections Finding Aids, Robert E. Kennedy Library. https://digitalcommons.calpoly.edu/lib_spc/5/, (accessed 2019-05-08)
- 16) Loe, N.E.: Final Grant Performance Report (PA-51183-05), Arrangement and Description of the Julia Morgan Architectural Archives, 2007. https://digitalcommons.calpoly.edu/lib_fac/16/, (accessed 2019-05-08)
- 17) Loe, N.E.: NEH Grant Proposal: Arrangement and Description of the Julia Morgan Architectural Archives, 2004. http://digitalcommons.calpoly.edu/lib_fac/15/, (accessed 2019-05-08)
- 18) Lowell, W. and Nelb, T.R.: Architectural Records: Managing Design and Construction Records, The Society of American Archivists, 2006
- 19) Masuda, K. and Yamaguchi T.: A Study on the Protection, Conservation and Presentation of Historical Documents on Modern Architecture: With an Analysis of The Collection of the University Art Museum, Bulletin of the Faculty of Fine Arts, Tokyo National University of Fine Arts and Music, No. 35, pp. 27–41, 2000 (in Japanese)
益田兼房, 山口俊浩: 建築史料の保護・保存・活用に関する考察: 東京芸術大学美術館所蔵資料の分析から, 東京芸術大学美術学部紀要, 第 35 号, pp. 27–41, 2000
- 20) MODS 3.5 to MARC 21 Mapping, The Library of Congress. <https://www.loc.gov/standards/mods/v3/mods2marc-mapping.html>, (accessed 2019-05-08)
- 21) Nakahara, M.: An Introduction to Architectural Archives in North America, AIJ Journal of Technology and Design, Vol. 5, No. 8, pp. 221–224, 1999.6 (in Japanese)
中原まり: 北アメリカのアーキテクチャル・アーカイブに関する調査報告, 日本建築学会技術報告集, 第 5 巻, 第 8 号, pp. 221–224, 1999.6
- 22) OAC Best Practice Guidelines for EAD (OAC BPG EAD), Version 2.0, California Digital Library, 2005. <https://help.oac.cdlib.org/support/solutions/articles/9000103649-oac-best-practice-guidelines-for-ead>, (accessed 2019-05-08)
- 23) Pearce-Moses, R.: A Glossary of Archival and Records Terminology, The Society of American Archivists, 2005
- 24) Saito, A.: A Model for the Arrangement of Architectural Records : Learning from the “Standard Series”, GCAS Report, No. 3, Graduate Course in Archival Science, Graduate School of Humanities, Gakushuin University, pp. 20–41, 2014 (in Japanese)
齋藤歩: 建築レコードの目録編成モデル: 「スタンダード・シリーズ」から考える, GCAS Report, 第 3 号, 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻, pp. 20–41, 2014
- 25) Saito, A.: A Report Participating SAA 2015 Workshop “Architectural Records: Managing Design and Construction Records”, GCAS Report, No. 5, Graduate Course in Archival Science, Graduate School of Humanities, Gakushuin University, pp. 112–119, 2016 (in Japanese)
齋藤歩: 米国アーキビスト協会ワークショップ (2015) 「建築レコード: 設計と施工の記録群を管理する方法」参加記, GCAS Report, 第 5 号, 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻, pp. 112–119, 2016
- 26) Saito, A.: Finding Aid for Architectural Records: Learning from the Loe’s Practical Application in 2004, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, History and Theory of Architecture, pp. 113–114, 2019.7 (in Japanese)
齋藤歩: アーカイブズ学に基づく建築レコードの目録作成: 米国のアーキビストによる事業計画書 (2004) に学ぶ, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築歴史・意匠, pp. 113–114, 2019.7
- 27) Shepherd, K. and Lowell, W.: Standard Series for Architecture and Landscape Design Records: A Tool for the Arrangement and Description of Archival Collections, Environmental Design Archives, University of California, Berkeley, 2000
- 28) The RIBA Library Catalogue, Royal Institute of British Architects. <http://riba.sirsidynix.net.uk/uhtbin/webcat>, (accessed 2019-05-08)
- 29) UC Bibliographic Standards for Cooperative, Vendor, and Campus Backlog Cataloging, rev. 07/24/2012. https://libraries.universityofcalifornia.edu/groups/files/hots/docs/UC_Bi_b_Standards_2012.pdf, (accessed 2019-05-08)
- 30) Yamada, H. and Yamana, Y.: Primary classification and study of the Kito Azusa materials (3): Indexing base on the character of materials, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, History and Theory of Architecture, pp. 389–390, 2005.7 (in Japanese)
山田裕史, 山名善之: 「鬼頭梓資料」の一次整理とその考察 (その 3) : 資料の性格にもとづく目録作成, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築歴史・意匠, pp. 389–390, 2005.7

ARCHIVAL TECHNIQUES AND FINDING AIDS FOR ARCHITECTURAL RECORDS

Arrangement and description practices based on archival science in the United States

Ayumu SAITO *¹

*¹ Program-Specific Assist. Prof., The Kyoto University Museum, M.Archival Science

1. Introduction

This study considered the relationship between archival techniques and finding aids for architectural records in the United States. Clarifying this relationship can also contribute to the establishment of archival practices in Japan. For this purpose, we first provided an overview of the project plan, which was prepared by archivist Nancy Loe as a grant proposal (Chap. 2). We then organized the component elements of finding aids, which were created according to the project outcomes (Chap. 3). Finally, we compared the outcomes with the proposal (Chap. 4).

2. Outline of Loe's grant proposal

We reviewed a project plan for the archival processing of architect Julia Morgan's papers and records. Nancy Loe, an archivist at California Polytechnic State University, prepared the plan as a grant proposal with five chapters for a grant from the National Endowment for the Humanities (NEH). Loe wrote about archival techniques and finding aids in Chapter 2, Methodology and Standards. Section 2, Arrangement and Description summarized the archival techniques: Arrangement with Shepherd and Waverly Lowell's Standard Series, Description at the folder level, and Addition of Project Index. Section 4, Finding Aids, EAD Web Sites, and MARC Records provided ways to create finding aids: EAD (Encoded Archival Description) and MARC (MACHine-Readable Cataloging).

3. Organization the component elements of finding aids

Subsequently, we organized the component elements of the finding aids for the Julia Morgan Papers, which were created according to the project outcomes for a 2005–2007 grant, in terms of arrangement and description. Focusing on the arrangement at the series level (EAD only) and the description at the collection and item level, the targets were four online repositories: the EAD web site in OAC (Online Archive of California), MARC records from WorldCat, KLOA (Kennedy Library Online Archive, California Polytechnic State University), and Calisphere.

4. Comparison and Discussion

Finally, we discussed the archival techniques and online finding aids by comparing the project outcomes with the proposal. First, OAC was compared to the Standard Series at the series level arrangement (4.1). Second, OAC was compared to the archival description standard DACS (Describing Archives: A Content Standard) in terms of description at the collection and the series levels and of the container list (4.2). Third, we compared OAC and WorldCat in the collection-level description, and KLOA and Calisphere in the item-level description (4.3). Finally, the characteristics of archival techniques and the interrelationship between all finding aids were discussed (4.4).

5. Conclusion

In this study, we examined the relationship between archival techniques and finding aids for architectural records referring to Loe's grant proposal and the project outcomes. The results clarified the following points regarding finding aids: (1) a finding aid is composed of modules such as a container list, an index, and an inventory; and (2) a finding aid could be prepared in multiple ways. Furthermore, this study indicated the following characteristics of archival techniques as procedures for composing finding aids: (i) an inventory is made by an arrangement at the series level of multilevel finding aids with the Standard Series representing the creator's functions and activities; (ii) a container list and a project index are made by descriptions of multilevel finding aids mainly at the folder level and partly at the item level; and (iii) Not only multi-level finding aids by EAD but also single-level finding aids by MARC are made to enhance access. This study was limited to case studies; in the future, I would like to adapt archival techniques utilized in the United States to the practice of archival processing in Japan.

(2019年5月10日原稿受理, 2019年12月18日採用決定)